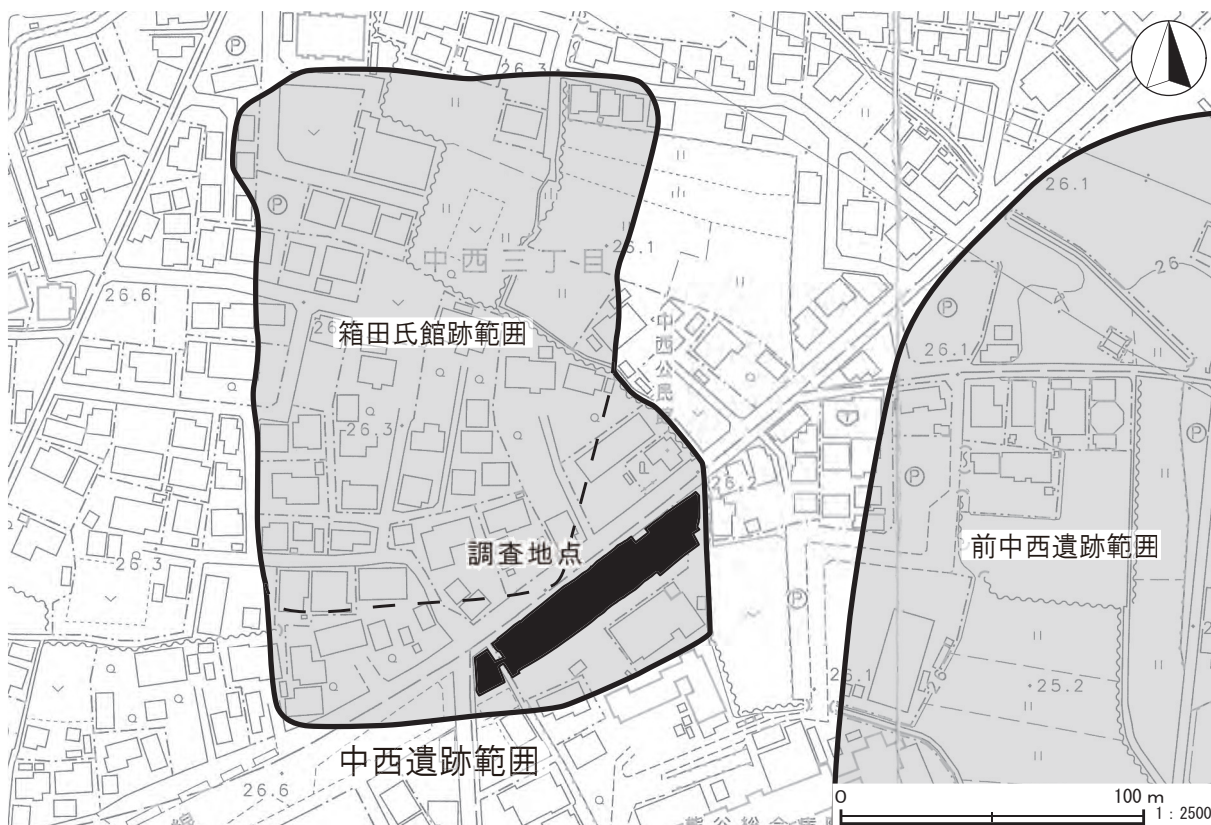


1. はじめに

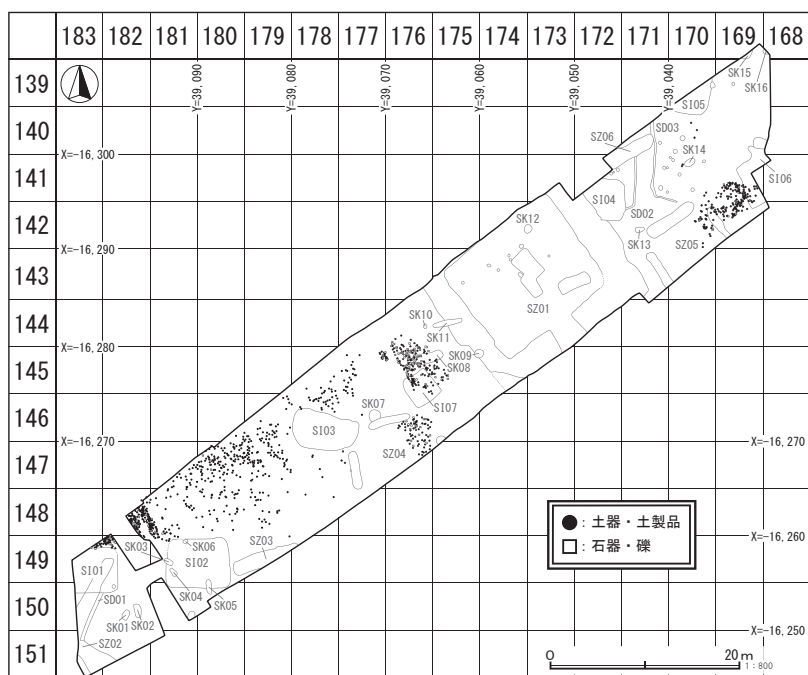
中西遺跡は、熊谷市東部の中西四丁目に所在し、標高24m前後を測る新期荒川扇状地の扇端部に立地しています。本遺跡は、縄文時代から弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代まで続く複合遺跡であり、ほぼ同所には中世の在地武士である箱田氏の館跡も所在しています。

発掘調査は、土地区画整理事業に伴い、平成21～23年度の計3か年で行われました。調査の結果、縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代は竪穴住居跡などの集落跡が、古墳時代は前方後方形周溝墓や方形周溝墓などのお墓が見つかりました。このうち、縄文時代については、縄文時代後・晩期（約3,500～2,800年前）の遺物包含層（土器や石器などの遺物が遺構に伴わずに出土する土層）からおびただしい数の遺物が出土しました。

今回の展示では、その膨大な数のうち、ごく一部のみではありますが、中西遺跡の縄文時代後・晩期の遺物包含層出土遺物をご紹介します。



熊谷市中西遺跡範囲・調査地点位置図



縄文時代後・晩期遺物包含層出土状況

2. 縄文土器

土器は、精製と粗製があり、出現期となる縄文時代後期中葉の加曽利 B 2 式から後期後葉の高井東式、後期後葉～末の安行 1・2 式、晩期初頭～中葉の安行 3 a～3 d 式まで絶え間なく続くことが確認されています。出土量は、加曽利 B 式が最も多く見つかっており、高井東式以降は徐々に減少していきます。器種は、深鉢形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、台付鉢形土器、壺形土器、注口土器、ミニチュア土器などの他に、異形台付土器、香炉形土器などの特殊な土器もみつっています。

精製深鉢形土器



後期中葉 加曽利 B 2 式



後期中葉 加曽利 B 3 式



後期中葉 加曽利 B 3 式



後期後葉 高井東式



後期後葉 高井東式



後期後葉 高井東式



後期後～末 安行 1 式



晩期前葉 安行 3 d 式

粗製深鉢形土器



後期中葉



後期中葉～後葉



後期後葉



晩期初頭～前葉

精製鉢形土器・浅鉢形土器・台付鉢形土器



後期中葉 加曽利B3式



後期後葉 高井東式



後期後葉 高井東式

精製注口土器



後期中葉 加曽利B3式



後期後葉 高井東式



後期後葉 高井東式



後期後～晩期初
安行2～3a式

その他



後期中葉 加曽利B3式
精製異形台付土器



後期中葉 加曽利B3式
精製異形台付土器



後期中葉 加曽利B3式
精製異形台付土器



後期中葉 加曽利B3式
精製土器（器種不明）



後期中葉 加曽利B3式
精製土器（器種不明）



時期不明 スプーン形土器



時期不明
「パレット状土器」

3. 土製耳飾り^{と せい みみ かざ}



土製耳飾り

土製耳飾りは、計12点出土しています。小さいもので直径2cm、大きいもので8cm程です。ドーナツ状を呈するものと中心に孔を持たないものの2つに分けられます。時期については、文様が無いものが多いため、具体的に特定することが困難ですが、縄文時代後・晩期の遺物であることは間違いありません。

4. 土製円盤^{と せい えん ばん}



土製円盤

土製円盤は、計60点出土しています。土製円盤とは、土器片の外周を削り、丸く整えたものであり、その用途は、祭祀具やおもちゃなど様々な説があります。大きさは、最大長5cm、最大幅4cm、重量は15g前後のものが多く見つっています。時期については、約半分が無文であることからその特定は困難ですが、文様のあるものは、後期後葉の高井東式が多く見つっています。

5. 石器・石製品^{せつ き せき せい ひん}



打製石鏃



石匙



打製石斧



磨製石斧



砥石



石錘



石皿



磨製石剣?



石棒?

石器は、^{だ せい せき ぞく}打製石鏃、^{い し さ}石匙、^{ま せい}スクレイパー、^{だ せい}打製・^{磨 せい}磨製石斧、^{すり い し}磨石、^{たた き い し}敲石、^{い し ざ ら}石皿、^{だい い し}台石、^{とい し}砥石、^{せき す い}石錘などがあり、石製品には^{せ っ けん}石剣や^{せき ぼう}石棒と思われるものも出土しています。これらの時期についても具体的な時期を特定するのは困難ですが、縄文時代後・晩期のものであることは間違いありません。

6. 中西遺跡の縄文時代後・晩期^{すわ の き}

中西遺跡は、熊谷市東部では本遺跡の東約1kmに所在する諏訪木遺跡とともに最古段階に相当する遺跡です。中西遺跡の縄文時代は、後期中葉の加曾利B2式期に出現し、加曾利B3式期に最盛期を迎えますが、後期後葉の高井東式期以降は徐々に減少し、晩期前半の安行3d式期には終息してしまいます。はたして、この様相が遺跡全体に当てはまることなのか、または今回の調査地点のみのことなのか、今後解明していくことが課題です。

令和元年9月24日発行

編集・発行 熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係）